

## 芸術作品にふれあう 町文化祭

(11月3～6日)



町文化祭の展示作品

町文化協会が主催し、今年で56回目を迎える当別町文化祭が西当別コミュニティセンターで開かれました。

町内で活動している41団体と個人の舞台発表や44団体と個人の作品、873点が展示された会場に約2,400人が足を運びました。会場には、コーラスや詩吟などの美しい音色が響き渡っていたほか、パッチワーク・書道・陶芸・生け花など出品者が心をこめて作った作品が並べられ、来場者は、足を止めて見入っていました。また、公民館会場では、菊花・盆栽展が催され大切に育てられた菊が見事な花を咲かせていました。11月20日には、スターライト町内会文化祭も開催され、100点以上の作品展示やギター演奏、もちつきなどを通して地域の人たちが交流を楽しんでいました。

タウン

トピックス

# Town Topics

広報誌で紹介した写真またはデータを希望者に提供します。

お申し込み

情報課広報広聴係

TEL 23-3069



スターライト町内会文化祭

## 長期生活体験モニターで当別に滞在

(11月5日)



北海道への移住を考えている方に、1カ月の滞在を通して当別の良さを実感してもらう「当別町長期生活体験モニター」の第1号として、大阪府から西川哲三さん啓子さんご夫婦が11月4日に来町しました。

移住促進協議会の協力を得ながら、冬を迎える季節をゆっくり楽しみ、1カ月間当別で生活します。

二人は、道内を1周したこともあるほど北海道が大好きで、息子さんが道内に勤めており、道内各地に知人が多いことから当別町での移住体験へ応募を決めたということです。

## 開拓を演じきった 町民劇「石狩川」

(11月6日)



当別青年会議所が創立25周年記念事業として町民劇「石狩川」を総合体育館で上演しました。

町内で初めて町民手作りで行われた演劇は、4歳から81歳まで70人の町民が性別や年代を超えて、約半年間の練習を経て作り上げてきました。

ちょんまげやはかまなどの衣装で役になりきった出演者は、岩出山から移住を決めるまでの苦悩や未開の地当別を見つけ、開拓するまでを演じきりました。

詰めかけた400人の観客からは堂堂とした演技に惜しめない拍手が送られていました。

## 町長の日記

17年11月22日 (火)

アメリカ旅行してからメールが来ることもあり、便利なものだと実感する。チョコレートの町ハーシータウンが目的地だったが、博物館など公共施設を行政ではなく財団が維持管理していた。当別でも会館などは行政が管理するのを早速検討し直そうと思う。

ハーシーに自給自足の生活をしている「アーミッシュ」がいた。彼等は電気や自動車は一切使わないでランプや馬車で生活していたし、集団ではなく一般の人と共に生活しているのが驚きだった。

ニューヨークのエンパイアステートビルからマンハッタンをながめ、圧倒された。パリのルーブル美術館が世界一だと思っていたが、メトロポリタン美術館の所蔵品が200万点と聞いてスケールの大きさに腰が抜けた。

更に驚いたのは館内の仕事をしている人がボランティアであると言うから、どうしたらこんな事が出来るのかと思った。

ニューヨークで最高級のバーグドルフ・グッドマンと言うデパートを覗いてみた。世界の超一流ブランドが並んでゴージャスな気分だったが、私の小遣いで買えるものは一つもないので「私はトイレを探しています。どうぞ教えて下さい。」と、下手な英語で尋ねたら6階だと教えてくれたので言葉が通じたと思い、ちょっといい気分になった。

それにしても日本のデパートでトイレだけ聞いて満足して帰った事などなかった。

アメリカがチップとカード社会だと言う事も良くわかった。一緒に行った人が地下鉄で切符を何回入れても改札口が開かないで困っていたら、黒人の婦人が開けてくれたのでお礼を云って行こうとしたら2ドルチップをくれと云われたと大笑いだった。

一流のホテルに予約していたのにチェックインの時は「何かカードをお持ちですか？」と尋ねられた。アメリカは9.11のテロ以来、特にお金よりもカードで身分を確認することを優先している。レストランの支払いは全てカードで、ボーイさんのチップだけはドルで支払うのだから面倒だった。いい旅行だった。休みをいただいて有難かった。

当別町長衆亭後考

## 元気溢れるまちに 「農業講演会」

(11月9日)



町が主催して、「農業を通じた地域活性化講演会」を「ゆとろ」で開催しました。

農村に詳しい講師の結城登美雄先生からは「地域活性化の原点は、ない物ねだりよりある物探してあり、地元の物を活かし、地元で消費することが大切」と集まった200人の参加者に伝えました。

また、地域活性化の取り組みとして、60歳以上の高齢者で会社を経営している長野県の「おやき村」などの事例をスライドを使って、ユーモアを交えながら紹介しました。

参加者は、メモを取ったり頷きながら熱心に話を聞いていました。

## 役立つ情報たっぷり 親子ひろば

(10月26日)



小さな子供を持つ親に役立つ情報を提供しようと、子育て情報誌を発行する「ママcomとうべつ」が、町教委の「町民自主企画講座」を利用して開いた「親子ひろば」に100組を超える親子が集まりました。

会場では、子供に望ましいおもちゃ選びの講演や子育て情報コーナーと助産師から妊婦への助言、絵本ボランティアのパネルシアターなどに、親も子も楽しみながら元気に交流していました。

参加者は「今日は楽しく遊べたし、ためになる情報も入手できた」と有意義な時間に満足していました。